

事業所における自己評価結果 (公表)

事業所名:リハテラー横浜港北 放デイ/児発

		チェック項目	はい (%)	どちらともいえない (%)	いいえ (%)	工夫している点
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100	0	0	大きい車椅子が多い日などは環境整備をより工夫して、活動スペースが多くとれるようにしています。
	②	職員の配置数は適切である	100	0	0	・児発と放デイのためできている。 ・理学療法士、看護師、児童指導員がバランスよく配置されるよう工夫しています。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100	20	0	・室内で教室を分けている1箇所のみ段差が大きいですが、教室を分けているので問題はない。それ以外はバリアフリーで、外からの出入りも問題ない。 ・教室3の出口との段差だけでもあるが、移動は可能。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100	0	0	
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	60	0	20	・普段からやりとりしていることも多くある。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100	0	0	
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	40	20	40	
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100	0	0	より良い支援が提供されるよう、地域を交えた勉強会の開催や、人間力を高める研修の実施などを行っています。
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100	0	0	・お子さんのニーズ、親御さんのニーズを分けて考え、必要な支援について協議している。 ・6F-wordsを用いて多角的に子どもたちを理解し、支援することに努めています。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	60	20	20	Fワード
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	100	0	0	・支援計画を半年に1回チームで相談しながら実施している。 ・一人ひとりの課題や目標に対するその日の活動プログラムはMTGで話し合っています。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100	0	0	・セラピストの視点をかり、次のアクションプランを考えアドバイスをもらっている。 ・活動プログラムにおいても日々改善、進化を重ねながら提供しています。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	60	40	0	・日々の課題、週の課題など考えながら目標達成に努めている ・学校休業日だからできることについての視点は持っていますが、目標設定等含めると課題があります。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100	0	0	一人ひとりのその日の身体状態や課題に応じて工夫して活動内容を考えています。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の内容や役割分担について確認している	100	0	0	始業前にミーティングを実施し、本日のやることを共有している。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	80	20	0	翌日や週間での振り返りを実施している。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100	0	0	記録については、職種間で多少のばらつきはあるため、今後揃えられるように現在調整中。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	60	40	0	モニタリングとは対象は？親御さんであれば話を聞き、計画の見直しは行なっている。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	80	20	0	

		チェック項目	はい (%)	どちらとも いえない (%)	いいえ (%)	工夫している点
関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	80	20	0	その子の課題に応じて、看護師や理学療法士など適切な職種に精通したスタッフが出席できるよう調整しています。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	100	0	0	
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	100	0	0	
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	60	20	20	保育所等訪問や送迎時に情報交換に努めている。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	40	60	0	
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	40	60	0	・わからない ・親御さんの了承が得られる場合には、療育センターへ回ったり連携をして、一貫した支援が行われるよう工夫しています。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	20	0	80	児童館との交流はないが、マラソン大会やホースセラピーといった外部との繋がりはある
	㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	20	80	0	
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100	0	0	送迎時に必ず親御さんにお会いすることができるので、その際のコミュニケーションを大切にしています。
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	20	40	40	
保護者への説明責任等	⑳	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100	0	0	
	㉑	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100	0	0	保育所等訪問や居宅訪問等を組み合わせ、よりその子や家族の支援ニーズが満たされるよう工夫して取り組んでいます。
	㉒	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	20	20	60	
	㉓	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	80	20	0	対象のお子様には行い、それ以外には必要なことであれば行っているが、全てではない。
	㉔	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	60	40	0	・SNSなどで、活動概要がわかるようにしており、また、ペーパー配信でどのようなスタッフが働いているかをわかるようにしている。 ・会報は発行しているが、上記についての発信は不十分な可能性がある。
	㉕	個人情報に十分注意している	100	0	0	
	㉖	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100	0	0	
	㉗	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	20	60	20	学生や有職者など施設に興味のある人の見学は快く受け入れ、より多くの方に知っていただけるように取り組んでいるが、地域住民は巻き込めていない。

		チェック項目	はい (%)	どちらとも いえない (%)	いいえ (%)	工夫している点
非常時等の 対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	80	0	20	保護者への周知に課題あり。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	40	20	40	・勉強会、訓練、避難場所の確認等行っている ・訓練数は不十分。
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	80	0	20	・e-ラーニングにて実施 ・直近1年間での研修はなし。実施していく必要あり。
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	40	40	20	全員が保護者に説明をしているかはわかっていない
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	60	40	0	
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100	0	0	

この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。